

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：32660

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20159

研究課題名（和文）工場経理部門のサービスが製造部門のコストマネジメントにおよぼす影響の解明

研究課題名（英文）The impacts of plant accounting department services on manufacturing department cost management

研究代表者

岩澤 佳太（Iwasawa, keita）

東京理科大学・経営学部経営学科・講師

研究者番号：60909430

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題全体の目的は、「工場経理部門のサービスが、製造部門のコストマネジメントにおよぼす影響」を解明することであった。この目的を解明するために工場経理部や製造部門のマネジャーに対するヒヤリング調査および製造部門を対象とした社内アンケート調査などを実施し、工場経理部門のサービスがおよぼす影響を定性的かつ定量的に解明した。これらの研究成果は複数の学会発表や査読付き学術論文に掲載された。また2022年度の日本原価計算研究学会の学会賞（論文賞）を受賞するなど高い評価を受けることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

コストマネジメントにおける原価情報の役割を解明した先行研究では、同一の原価情報を利用しているにも関わらず、なぜマネジャーによってその有用性の認知や活用程度が異なるのかといった疑問は明らかにされていなかった。そこで本研究は、コストマネジメントにおいて工場経理部門が果たす役割に注目し、サービス品質概念の援用から工場経理部の役割を概念化した上で、そして工場内アンケート調査を実施することで、「製造マネジャーによって工場経理部門のサービス品質の認知に違いが生じ、そのことが工場内の製造マネジャーの原価情報の需要や活用に影響することや、原価情報とその効果の関係を調整している」ことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The overall objective of this research project was to elucidate "the impact of factory accounting department services on manufacturing department cost management. The overall objective of this research project was to elucidate "the impact of factory accounting department services on cost management in manufacturing departments.

To achieve this objective, we conducted an interview survey of managers of factory accounting departments and manufacturing departments, and an internal questionnaire survey of manufacturing departments to qualitatively and quantitatively elucidate the effects of the services provided by factory accounting departments.

These research results were presented at several academic conferences and published in peer-reviewed academic papers. This project was also received high evaluations, including the Best Paper Award from Japan Cost Accounting Association.

研究分野：管理会計

キーワード：原価計算 原価情報 コストマネジメント サービス品質 情報品質 管理会計担当者 経理部門 インタラクション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

工場内の CM における原価情報の重要性については、古くから議論されてきた。伝統的な原価計算は不正確であり誤った意思決定を促すという批判もあり、どのような原価計算・情報が、CM に効果を与えるのかを多くの経験的研究が解明してきた。申請者のこれまでの研究も、「諸特性（正確性・理解容易性・関連性等）を満たした原価情報が、高い効果をおよぼすこと」を明らかにした（岩澤 2020）。しかしこれらの研究では、「同一の原価計算・情報にも関わらずその満足度や効果が異なるのはなぜか」「同一工場に所属し、同一の原価情報を利用しているにも関わらずマネジャーによってその有用性の認知や効果が異なるのはなぜか」といった疑問が生じ、これらに対する明確な解が得られているとは言えない。

こうした中、近年、管理会計担当者（Management Accountants）に関する研究が展開している（Goretzki & Messner 2019 等）。会計情報を計算するだけでなく、マネジャーのビジネスパートナーとして意思決定を支援する重要性を示している。これらの研究は、同一組織のマネジャーでも、会計知識や経験により管理会計担当者に対する役割期待や関与度が異なることを示した。加えて Fleischman et al. (2017) は、隣接分野の知見である「サービス品質」概念を援用し、管理会計担当者の役割の定量的な測定を可能とした。管理会計担当者のサービス品質とは「管理会計担当者がマネジャーからの要求を果たしている程度」を意味する。

本研究はこの研究群の知見に着目し、工場経理部門を管理会計担当者と捉えることで、これが工場での CM におよぼす影響を解明する。この知見の援用により、製造マネジャー（の経験や会計知識等）によって工場経理部門のサービス品質の認知に違いが生じ、そのことが工場内の製造マネジャーの原価情報の活用や諸特性（理解容易性・関連性等）の認知に影響することや、原価情報とその効果の関係を調整するのではないかという仮説が立つ。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「工場経理部門のサービスが、製造部門のコストマネジメントにおよぼす影響」を解明することである。コストマネジメント（以下、CM）における原価情報の役割を解明した先行研究では、同一の原価情報を利用しているにも関わらず、なぜマネジャーによってその有用性の認知や活用程度が異なるのかといった疑問は明らかにされていないかった。

3. 研究の方法

研究目的を達成するため、本研究は、CM において工場経理部門が果たす役割に注目し、サービス品質概念の援用から工場経理部門の役割を概念化する。加えて、工場経理部や製造部門のマネジャーにインタビュー調査をすることで、工場経理部門が果たすサービス品質概念の測定方法を検証する。

その上で、作成した尺度に基づき、製造部門のマネジャーを対象とした工場内アンケート調査を実施することで、「製造マネジャーによって工場経理部門のサービス品質（の認知）に違いが生じ、そのことが工場内の製造マネジャーの原価情報の需要や活用に影響することや、原価情報とその効果の関係を調整している」ことを明らかにする。

4. 研究成果

これらの研究の結果、「工場経理部門のサービス品質が高いほど、製造部門の CM における原価情報の活用が進むとともに、工場内でのインタラクションを活性化させ、そのことが、生産パフォーマンスを向上させること」を示した。

本研究の貢献は次の 3 点である。第 1 に社内アンケート調査により、製造部門の CM における工場経理部門の重要性を実証した点である。原価計算や原価情報に関する先行研究では、同じ組織に所属し同一の原価計算・情報を利用しながらも、その利用程度や満足度等には、大きな差があることが示されていた（Abernethy et al. 2001; McGowan and Klammer 1997; 岩澤 2019, 2020 等）。しかしなぜこのような差が生じるのかは十分明らかでなかった。こうした中で、本研究は工場経理部門のサービスが重要な影響を与えていることを示すことができた。

第 2 に、管理会計担当者に関する研究群に対しても貢献が認められる。既述の通り、管理会計担当者に関する先行研究は、組織における管理会計担当者が果たす役割の重要性を主張しながら（Byrne and Pierce 2018; Goretzki and Messner 2019; Goretzki et al. 2013 等）、実際の組織業績への影響や、そのプロセスについて経験的証拠は十分とは言えなかった。これは、管理会計利用者である組織やマネジャーの多様性や、管理会計担当者が複数部門に跨ることが多いことに起因すると考えられる。こうした中本研究は、管理会計担当者として工場経理部門を取り上げ、その組織パフォーマンスへの影響を実証することができた。工場という多くのマネジャーが所属し、かつ管理会計担当者がほとんど工場経理部門に限定される場所を研究対象に選定したため、この実証が可能となった。

第 3 に、定性的な調査から、工場経理部門に求められる役割をサービス品質として概念化し、測定尺度を示すと共に、その妥当性を確認した点にも貢献が認められる。

これらの研究成果は、査読付き学術誌に掲載された他、2022 年の日本原価計算研究学会学会賞（論文賞）を受賞するなど高い評価を得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉田 栄介, 藤田 志保, 岩澤 佳太	4. 巻 64
2. 論文標題 中期経営計画の特性と目標達成 : 日経225企業を対象として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三田商学研究	6. 最初と最後の頁 59-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩澤 佳太, 榎谷 奎太, 吉田 栄介	4. 巻 30
2. 論文標題 日本企業におけるコストマネジメントの変容 原価企画に関する5年毎の郵送質問票調査に基づく分析・考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 37-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24747/jma.30.1_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榎谷 奎太, 岩澤佳太, 吉田 栄介	4. 巻 13
2. 論文標題 日本企業における業績管理の変化と変容 : 10年分の実態調査データに基づく分析と考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 メルコ管理会計研究	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩澤 佳太	4. 巻 46
2. 論文標題 工場経理部門のサービスが製造部門のコストマネジメントにおよぼす影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 74 ~ 87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.46.1_74	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江本 雅人、岩澤 佳太、鬼塚 雄大、横田 絵理	4. 巻 31
2. 論文標題 スタートアップ企業における製品・サービス別原価情報の有用性 学童保育事業を対象としたアクション・リサーチ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 管理会計学 : 日本管理会計学会誌 : 経営管理のための総合雑誌	6. 最初と最後の頁 3~21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24747/jma.31.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 岩澤佳太
2. 発表標題 工場経理部門のサービスが製造部門のコストマネジメントにおよぼす影響
3. 学会等名 日本原価計算研究学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 吉田 栄介、森 浩気、榎谷 奎太、岩澤 佳太、徐 智銘、福島 一矩、妹尾 剛好	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 256
3. 書名 日本の管理会計の変容	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------